

# 第5学年 道徳学習指導案

い組 男子18名 女子20名 計38名  
指導者 益満陽平

## 1 主題名 責任をもって

4-(3) 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす

## 2 主題について

### (1) 主題の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに学校や家庭、地域などにおける日常生活において、その集団の役に立つ喜びや協力して働くことの大切さを理解し、自分から進んで集団のために働こうと努力してきた。しかし、怠惰な感情や労苦からの逃避などから、集団における自分の役割を自覚できなかつたり、進んで周囲と協力して自分の責任を果たそうとしなかつたりと集団において主体的に行動できないことがある。このようなことから、この期の子どもたちに、身近な集団において、自分の役割と責任を果たすことの大切さや役に立つ喜び、協力して活動する楽しさを理解させ、身近な集団における自分の役割と責任を他者と協力しながら主体的に果たしていこうとする態度を育てる必要がある。

本主題では、身近な集団の中で、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たすことができない場面で生じる心情や心情の変化を、自らの体験場面での内面と関係付けて類推しながら追究する活動を通して、身近な集団において、自分の役割と責任を自覚し、それを果たすことの大切さや集団の中で自分がそのことによって得られる喜び、他者と協力して活動する楽しさを感じながら、身近な集団における自分の役割と責任を主体的に果たしていこうとする心情を育てることをねらいとしている。さらには、身近な集団において自分の役割と責任を主体的に果たし他者と協力する生き方は、お互いの信頼関係を深め、よりよい人間関係を築くことに繋がるというよさを実感し、身近な集団に進んで参加しようとするなど、これからの生活に生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。

このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は、自分が属する集団の意義について理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める生き方を追究していく学習へと発展していくことになる。

### (2) 指導の基本的な立場

身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たすことについて、人間のもつ二面性に着目して人間理解を深めるという立場から分析すると下の図ようになる。

身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たすためには、一人一人が集団の中で、自分の役割をしっかりと考えて積極的にかかわることが大切である。そのことを通して、自己の成長が見られ、さらに自分の位置や役割を自覚してその責任を果たすことができ、他者や集団との信頼関係が深まり、よりよい生活へとつながっていくと考えることができる。

ここでは、集団の一員としての自覚をもって進んで責任を果たし、自他共に調和的に生きたいという願いの基に、身近な集団において、自分の役割と責任を他者と協力しながら果たすことの大切さや役に立つ喜びや楽しさを感じ、信頼関係を深



◎は重点的な学習内容

めてよりよい人間関係を築こうとすることを目指した生き方とし、その実践を支える見方・考え方・感じ方（意義）と実践を阻む心の弱さの両面から、人間理解を深めていくことになる。

具体的には、身近な集団において自分の役割と責任を他者と協力しながら主体的に果たすことが、自他共に快い感情になり心が安定することや、信頼関係が深まり互いに明るい気持ちで生活できるようになることなどを理解させる。一方で、自分の役割と責任を主体的に果たし、他者と協力していききたいと思いつつも外へ欲求、怠惰な感情、楽観的な考えなどの心の弱さからなかなか実践できないことがあることにも気付かせる。そして、それらの弱さと望ましい生き方との間に起こる心の葛藤を乗り越えていくためには、自分の役割をしっかりと考える、自分のできることをしっかりとする、周りの人の気持ちを考える、一人一人のがんばりがみんなを支えている、などの心構えが大切であることも理解させる。

このような内容にかかわる生き方への共感を高めるために、本主題では、読み物資料「取り返しつかない一日」（学研）を取り上げることにした。この資料は、次のような粗筋である。

上級生が5年間続けている気象観測を担当に任された主人公の田中たち三人は、夏休みの当番の日に観測へ出かける。その途中、川で見つけた大きな鯉を捕ることに夢中になり、観測を忘れてしまう。その後、これまで続けてきた気象観測日記のグラフが一日途切れているのを見て、自分たちの行動の重大さに気付くという内容である。

この資料を扱うに際し、話の内容の理解を深め、三人の心情に十分に触れさせるために、録音CDや一枚絵を活用する。また、子どもたちの体験場面を振り返らせ、そこでの内容と登場人物の心情を関係付けて類推させるようにし、三人の心情や心情の変化に自我関与させる。

具体的には、まず資料の一読後の感想から、担任の先生から気象観測を任された場面での三人の心情や心情の背景を追究させ、さらに鯉に夢中になってしまい、気象観測を忘れてしまっている場面での心の弱さを共感的に追究させる。

次に気象観測日記のグラフが一日途切れているのを見た場面での三人の心情や心情の背景を追究させる。その際には、これから三人が自分の心の葛藤を乗り越え、よりよい生き方を目指すために、価値に対する見方・考え方・感じ方（意義・心構え）がどのように変わっていくかを多面的に追究させる。そして、これまで気象観測を続けてきた先輩たちの気持ちも考えさせることで、身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たすことにかかわるよさについてもさらに実感を深めていく。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は、身近な集団において自分の役割と責任を果たすことの大切さや役に立つ喜び、他者と協力して活動する楽しさを感じ、信頼関係を深めてよりよい人間関係を築こうとすることを目指した生き方とする意欲につながるものであると考える。

### (3) 子どもの実態

本学級の子どものたちの身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たすことにかかわる経験や、実践を阻む心の弱さ、実践を支える見方、考え方・感じ方（意義・心構え）等についての認識は以下のとおりである。

[表1] 実践できたと感じた理由（総反応数38）と実践をしていた時の感情（総反応数41）についての認識

実践できたと感じた理由	反応数(人)	その時の感情	反応数(人)	その時の感情	反応数(人)
家の人から褒められた	15	すっきりしたい	13	楽しい	2
自分でその様子を判断した(きれいになった, しっかりとできた)	14	相手へのことを思って	11	みんなに褒められたい	2
友だちから褒められた	3	がんばってやってみよう	6		
先生から褒められた	2	責任をもってやろう	5		
毎日そのことを続けている	2	自分から進んでしよう	2		

[表2] 実践を阻む心の弱さの認識

総反応数38

心の弱さ	反応数(人)	心の弱さ	反応数(人)
怠惰な感情(めんどうだ)	16	自信のなさ(できるかな)	3
労苦からの逃避(やりたくない)	8	あきらめの感情(自分にはできない)	1
外への欲求(早く遊びたい)	5	自信過剰(簡単にできる)	1
楽観的な考え(これくらい平気だ)	4		

[表3] 実践を支える意義や心構えについての認識

(総反応数 134)

見方・考え方・感じ方		反応数(人)	見方・考え方・感じ方		反応数(人)	見方・考え方・感じ方		反応数(人)
対 自 己	うれしい, すっきりする	16	対 他 者	うれしい気持ちになる	26	対 集 団 ・ 社 会	うれしい気持ちで生活	28
	自信がつく	13		相手への思いやり (役立ちたい)	10		自信をもって生活	4
	成長する (心が強くなる, やさしくなる)	10		成長できる	5		信頼できる集団	1
	自分から進んでする	10		自信がつく	2			
	責任感をもつ	6						
	けじめをつける	2						
	信頼される	1						

[表1]からわかるように、本学級の子どもたちは、他者とのかかわりの中で自分が役割や責任を果たした行動ができていてと感じていたり、他者のことを考えて行動しようと感じていたりすることがわかる。しかし、集団の中で自分が役割や責任を果たしたいと思っても [表2]からわかるように「めんどろ」、「やりたくない」といった感情から、その役割や責任を果たせたと感じられないことがあることにも気付いていることもわかる。さらに[表3]から、集団の中で自分が役割や責任を果たしていくことについては「自分の気持ちがすっきりする」「成長する」「自分から進んでする」「自信がつく」などの意義や心構えを感じている子どもが多いことがわかる。また、「うれしい気持ちで生活できる (楽しい生活)」という集団や社会とのかかわりの面においても反応が見られることから、集団の中で自分の役割や責任を果たすことが、集団・社会がよりよいものになることに寄与するという見方等ができていてを示している。さらに豊かな体験との関連を図り、集団・社会に関する見方・考え方・感じ方を多様に追究させるようにしたい。

一方、道徳の時間での本学級の子どもたちは、問題意識をもって学習に取り組む姿は見られるが、互いの考えを比較、関係付けながら、道徳的価値に対する見方等を十分に深め、広げるまでに至っていない。そこで、自分が強く共感した意義や心構え、それが自分の生き方とどのようにかかわっているかなどを意識させながら追究させるような働きかけを具体化していく必要がある。

#### (4) 指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては、子どもたちが自己の生き方についての考えを深め、繰り返し自分に問いかけながら、「身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たすことにかかわる生き方のよさの実感を深めるようにしたい。

ア 内容にかかわる生き方についての切実な問題意識をもたせるために、これまでの中で自分の役割と責任を自覚して行動することができた時、できなかった時の気持ちを対比させ、その矛盾から子ども一人一人が考えていきたい問題を設定させるようにする。

イ 田中たち三人の心情や心情の変化に十分に共感させるために、資料一読後の感想から、それぞれが追究場面を焦点化し、その場面について子どもたちが互いに話合う場や活動を設定し、その場における田中たち三人の心情や心情の変化を追究させるようにする。その後、各場面で追究したことを全体での話し合いで比較、関係付けを行いながらさらに追究できるようにする。

特に、三人が、気象観測を任された場面や気象観測を忘れ、鯉捕りに夢中になっている場面での三人の心情について話し合わせ、「進んで行動したい」などの意義や「めんどろだ」「やりたくない」などの心の弱さを追究させることで共感的にとらえさせる。

また、途切れた気象グラフを見ている三人の心情やその変化についても考えさせる。その際、板書した三人の気持ちの中から特によくわかる気持ちや理由を「どうしてそのように感じたのか。」「これまで似たようなことがあったか。」などと問い返すことで、自らの体験場面と関係付けて類推させ、共感的に考えさせるようにする。

さらに、実践を支える見方等を深め、広げさせるために、全体を通して考えていく中で、「三人にどんなアドバイスをするか。」と問い、「自分の役割をしっかりと考える。」「一人一人の力がみんなを支えている。」などの子どもたちの考えを板書に構造的に示すことで、ここでの意義や心構えをさらに追究させるようにし、対集団・社会にかかわる見方等についても考えさせる。

ウ 内容にかかわる自己の生き方についての考えを深めるために、三人の生き方を基に自分の生き方を振り返らせる。さらに、自分がこの学習で強く感じたことやどのような気持ちに変わったか、感じた意義や心構えをこれからの自分の生活にどのようにかかわらせるかなど、自分の考えをまとめる場を設定する。

### 3 本 時

#### (1) ねらい

- ア 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たすことにかかわる自分自身の生き方を見つめ、自分自身のもつ心の葛藤を乗り越えて、自分の役割と責任を自覚して行動しようとする気持ちを高めることができる。
- イ 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たすことにかかわる見方・考え方・感じ方を自らの体験場面での内面と関係付けながら考え、表現することができる。
- ウ 外への欲求や怠惰な感情などの心の弱さから、自分の役割と責任を果たすことができないことがあることに気づくとともに、自分の役割と責任を自覚して行動するための意義や心構えの大切さを理解することができる。

#### (2) 本時の展開に当たって

自分自身の学習問題に対して、主体的に問題追究を行うことができるように、グループや全体での対話活動で、自分と友だちの考えの比較や関係付けを行い、価値にかかわるに見方・考え方・感じ方を深めたり、広げたりできるようにしたい。また、自己の生き方についての考えを深めるために、ワークシートを活用して、価値にかかわる見方等がどのように変わったか、感じた意義・心構えをこれからの生活にどのようにかわらせていくかなどを考えさせる。

#### (3) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
気付く	1 自分の役割や責任を自覚して行動ができた時やできなかった時の気持ちを発露し、考えていきたい問題に気付く。 自分の役割や責任を果たすには、どんな気持ちや考えが大切だろう。	↑ 7 ↓	○ 切実な問題意識をもたせるために、これまでの生活の中で、自分の役割や責任を自覚して行動できた時とできなかった時の気持ちを発露させ、その気持ちの矛盾から問題意識をもたせる。 ○ 資料を感動的に読み取らせるために、録音CDや場面絵を効果的に活用する。
さぐる	2 資料「とりかえしのつかない一日」を読んで、身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たすことにかかわる生き方について話し合う。 (1) 田中たち三人の言動や心情、心情の変化について感想をもち、考えていきたい場面を選択する。 (2) 三人の心の弱さや迷い、途切れたグラフを見て大切な考えに気付いた三人の感動や意義・心構えについて話し合う。  【意義】 気持ちがあがってくる→自分に自信がつく→みんなも喜ぶ→信頼し合える→みんなが役割や責任を果たす→みんなまで喜び合える→よりよい生活ができる 【心構え】 自分の役割をしっかりと考える。自分のできることをしっかりとやる。周りの人の気持ちを考える。あきらめずに続ける。 など	↑ 15 ↓	○ 追究したい場面ごとに分かれた任意のグループでの話し合いの後、考えたことを基にした全体での話し合いを行う。 [場の設定]  ○ 一人一人が自分の考えを明確にもち、それを基に話し合いができるように、マグネットシートに考えを書き込み、ホワイトボードに貼らせる。 ○ 子どもたちの発表を基にマグネットシートを移動させたり関係付けたりしながら構造的にまとめる。 ○ 三人の気持ちを自らの体験場面での内面と関係付けて類推させるために、共感できる三人の気持ちから自己の経験について想起させる。 ○ 価値にかかわる見方・感じ方・考え方を深めたり広げたりできるように、自分の考えと友だちの考えを比較して考えさせたり、関係付けて考えさせたりする。その際、これまでの自分の生き方へのかかわりを意識できるように、自分の考えの根拠を明確にさせる。 Ⓢ このことを通して三人はどんな気持ちや考えの大切さに気付いただろう。
見つける	(3) 三人の生き方を振り返り、自分の考えと友だちの考えを見比べて、感じたことや考えたことを発露し合う。	↑ 13 ↓	
深める	3 学習したことを振り返り、自分で考え、判断して行動するにはどんな気持ちや考えをもつことが大切か、自分なりの考えをまとめる。  	↑ 8 ↓	○ これからの実際の生活の中で、自分の役割や責任を果たしていこうとする気持ち意欲を高めたり、学びとった価値のよさと自分自身の生き方とのかかわりと強く意識させたりする。その際、ワークシートを活用して学習の中で特に強く感じたことなどを通して、自分の見方・考え方・感じ方の変容や感じた意義・心構えをこれからの生活にかかわらせていくかなどを考えさせる。
見通す	4 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たすことにかかわる写真を見る。	↑ 2 ↓	○ 子どもたちが感じると思われる意義や心構えに関係の深い写真を見せ、子どもたちの課題が連続・発展し、実践化が図られるようにする。